

令和 7 年 5 月 14 日

発生予察及び病虫害防除等担当課（係）長 様

新潟県病虫害防除所業務課長

令和 7 年度新潟県病虫害発生予察速報第 3 号の送付について
（トマトキバガ等の発生状況）

このことについて、別紙のとおり送付しますので、防除指導の参考にしてください。

（情報の問い合わせ先）

	T E L	F A X
新潟県病虫害防除所	0258(35)0867	0258(35)7445
〃 下越駐在所	0254(27)5518	同左
〃 佐渡駐在所	0259(63)3185	0259(63)4386

令和 7 年 5 月 14 日
新潟県病虫害防除所

令和 7 年度
新潟県病虫害発生予察速報第 3 号
(トマトキバガ等の発生状況)

I トマトキバガ

1 発生状況等

- (1) 令和 7 年 4 月以降、県内の施設栽培のトマトで幼虫による若い葉や果実の食害が確認されている（図 1、2、3、4）。
- (2) 本年は 4 月第 5 半旬に性フェロモントラップを設置したところ、5 月第 2 半旬までの誘殺数は新潟市南区西白根で 21 頭、新潟市南区西笠巻で 15 頭、新潟市江南区和田で 8 頭となった（表 1）。前年は 5 月第 2 半旬に設置し、同月第 5 半旬から誘殺が確認されている。
- (3) 気象庁が 5 月 8 日に発表した 1 か月予報では、平均気温が平年に比べ高くなると予想されており、気温の上昇とともに発生の増加が懸念される。

2 被害の特徴

- (1) 葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。幅広の面的な食害痕が特徴である（図 3）。
- (2) 果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する（図 4）。

3 防除上の注意事項

- (1) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場放置せず、速やかに土中に深く埋設か、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (2) 薬剤防除は、本県農作物病虫害雑草防除指針を参考に実施する（令和 7 年度版防除指針に掲載されている薬剤は、表 2 のとおり）。

令和 7 年 5 月 1 日現在、トマトキバガに対しての農薬登録は、トマト及びミニトマトのみである。指針に掲載されていない薬剤もあるので、農薬散布にあたっては最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため作用機構が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

（農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>）



図1 トマトキバガの成虫



図2 葉を食害する幼虫



図3 トマトの葉の食害痕



図4 果実の食害痕

表1 県内各地の性フェロモントラップにおけるトマトキバガの誘殺数
(令和7年5月7日現在)

地点名	誘殺数
聖籠町真野（園芸研究センター）	2
新潟市北区松潟	2
新潟市江南区和田	8
新潟市南区上赤渋	7
新潟市南区西笠巻	15
新潟市南区西白根	21

令和7年4月24日 トラップ設置。

表2 トマトキバガに使用できる殺虫剤一覧

作用機構 分類 (FRACコード*)	薬 剤 名	使用方法	使用時期	本剤の 使 用 回 数	希釈倍率	散布液量
28	ヨーパルフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	100～300 ℓ/10a
30	グレーシア乳剤	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	
UN	ブレオフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	

(令和7年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針 トマト及びミニトマトの項に掲載)

※上記以外の薬剤については、農林水産省 HP 等を参照。

(農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>)

Ⅱ コナガ

1 発生状況

- (1) 園芸研究センターの性フェロモントラップで、4月以降誘殺が平年比多くなっている。4月第3半旬まではほぼ前年並であったが、第4半旬以降は前年を上回り、5月第1半旬の誘殺数は135頭となった(図5)。
- (2) 前年の誘殺数は平年より多く、越冬数が多かったと推測される。

2 防除上の注意事項

- (1) アブラナ科野菜の苗は寒冷紗で覆うなど防除対策を徹底する。
- (2) 今後晴天が続くと幼虫の生存率が高まり、いっそうの増加が懸念されるので、ほ場を観察し成虫の飛翔や幼虫の増加がみられたら、薬剤防除する。
- (3) 薬剤防除は、本県農作物病害虫雑草防除指針を参考に実施する。同一薬剤を連用すると抵抗性がつきやすいので、作用機構が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

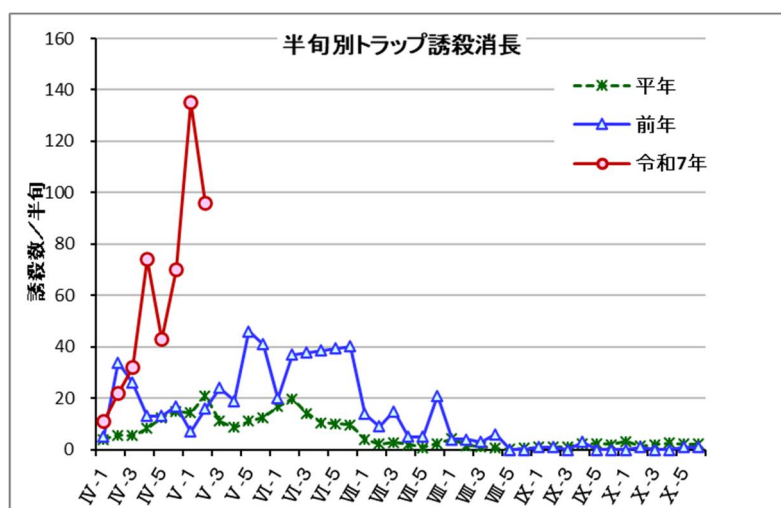


図5 コナガの性フェロモントラップによる半旬別誘殺数(頭)

聖籠町真野 園芸研究センター

Ⅲ オオタバコガ

1 発生状況

- (1) 県内各地の性フェロモントラップで、4月第5半旬以降誘殺が確認されている。
- (2) 現在の誘殺数は、多いところで半旬当たり10頭程度であるが、前年は5月後半から急増した地点が多く、今後の発生に注意が必要である。

2 防除上の注意事項

- (1) 新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいる可能性が高いため、発見しだい捕殺する。被害果や被害株は内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外に持ち出して処分する。
- (2) 中齢期以降の幼虫は、結球部や果実、花らい等に潜り込むために防除効果が劣るので、幼虫が確認された場合は早急に薬剤防除を行う。
- (3) 施設栽培では、開口部を寒冷紗等（5mm目程度の防虫ネット）で覆い、成虫の侵入防止に努める。